



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

会長あいさつ

第五十八代会長 高橋 弘



国際ロータリー (Rotary International (RI)) 第2570地区飯能ロータリークラブ第58代会長としてごあいさつ申し上げます。

RI会長シェカール メータ (Shekhar Mehta) 氏の本年度のテーマは、「奉仕しよう、みんなの人生を豊かにするために (Serve to change lives)」です。人のために生き (Live for others)、人の世話をし (Care for others)、人に奉仕する (Serve others) ことは、自らの人生における最善の途 (The best way) であることを強調し、もっと行動しもっと成長しなければならない (We need to do more. We need to grow more) とされています。とりわけ、奉仕活動について、多様性を尊重する観点を最重要ととらえていること、また、会員増強について、若い世代の増強を目指すことの重要性に焦点を当てつつ、会員各自が1人の新会員を連れてくること (Each One, Bring One) を提唱されていることが注目されます。

RI会長方針を受けて、水村雅啓第2570地区ガバナーは、「もっと夢を、もっと奉仕を (More dreams More service)」を地区スローガンとして掲げ、未来のあるべき地区、クラブの姿を真摯に描き、描いた夢の実現に向けて、奉仕プロジェクトを実行すべきとしています。

私は、上述のRI会長方針、地区ガバナー方針との調和を考慮したうえで、本年度の当クラブのテーマを「自立と尊重 (Independence and Respect)」とすることとします。多様性を尊重しつつ人に奉仕し、未来への夢を描くためには、まずもってみずからが自立し、会員が相互に尊厳ある個人として尊重し合う環境づくりが重要であると信ずるからです。

しかしながら、本年度は、依然として、コロナ禍が猛威を振るう特殊な状況にも配慮した行動をすべきです。そこで、その一環として、8月以降は、各月とも月3回の例会の内の1回を感染防止に向けたロータリー活動の一環として取り消すこととし、その代わりに、例会を全体会、委員会を分科会とイメージしていただき、各委員会活動の活発化を提案したいと思います。少人数の委員会活動の活発化は、健康への配慮に役立つとともに、従来からの奉仕活動の持続化をはかり、会員相互の心のかよい合いを一層増幅させることにもつながるものと考えられるからです。そのうえで、会員各自が1人の新会員を推薦することができるよう、皆で力を合わせたいと思います。

むすびに、第二次世界大戦後はじめてといわれるコロナ禍のパンデミックに遭遇したにもかかわらず、クラブの存続に向けたさまざまな工夫を試み、苦難を乗り越える努力を常に惜しまなかった田辺年度の取り組みには、深く感謝し、心から敬意を表します。本年度にあっても、こうした工夫や努力を惜しまぬ姿勢を継承するとともに、会長として、可能な限りのコーディネートに努め、会員の誰もがロータリアンであることに喜びを感じる事ができ、かつ、多忙な毎日の中にあっても寛ぎのひとときを共有できるような例会運営に力を注ぐ所存です。1年間どうぞよろしくお願いいたします。以上

任期を終了して

第五十八代会長 高橋 弘



会長方針により安全第一を主眼に掲げ例会数を抑制した今年度の年度計画に対しては、賛否両論がありました(クラブ戦略計画委員会/プログラム委員会)。しかし、コロナ禍の最中、さしたるトラブルもなく、当初の会員数を維持したまま(会員〔会員増強・会員選考・職業分類〕委員会)、ほぼ計画どおりに事業を終了できること(クラブ奉仕委員会)は、「従来にも増して心をかよわせ、相互に健康と生活を守るための工夫に注力すること」とした最重要方針に対する会員各位の心温まるご協力とご支援の賜物にほかならず、心から感謝申し上げます。

さて、今年度の主な活動を振り返りますと、

- 飯能市地区行政センター(13か所)に対する検温消毒器の寄贈(社会奉仕委員会)
- 公式ホームページの新規立ち上げ、会報及び周年記念誌等の電子情報化、フェイスブックサイトの開設(公共イメージ〔会報・広報、雑誌〕委員会)
- IM開催に対するYouTube配信の活用(全員登録の維持/ガバナー補佐の補助)
- Zoomによる例会開催および4つのテスト等への英語動画の採用(職業奉仕委員会)
- 駿河台大学の箱根駅伝への参加支援(国際奉仕委員会)
- 当クラブのゆるキャラ『笑顔の紳士君』(へへへのしんし〔吉田行男会員作〕)の製作
- 特別寄付の受付(財団・米山委員会/5件)
- ロータリークラブ杯 少年野球大会の開催(青少年奉仕委員会・社会奉仕委員会)
- 日高クラブとの協働による3年振りに再開した飯能新緑ツーデーマーチへの参加・同ペットボトル飲料水7000本の寄贈と受付事務への協力および入間クラブほか複数クラブとの協働による乳がん検診車の寄贈への協力(ロータリー奉仕デー/環境保全委員会・社会奉仕委員会)
- 入会后3年未満会員への研修の実施(ロータリー情報委員会)
- 飯能市環境学習用品給付事業への寄贈(環境保全委員会)

など多岐にわたる活動を挙げることはできますが、コロナ禍の影響でメイクアップの機会も少なかったこと(出席向上委員会)や、時間をかけて計画していただいた親睦旅行を中止せざるを得なかったこと(親睦活動委員会)などは心残りです。

ところで、西武鉄道では、発想を転換して、他社が保有する中古の新性能車両を購入することにより旧性能車両を早期に置き換える方針が発表されました。大手私鉄では恐らく初めての試みであり大きな話題となっているようです。今回の発想転換は、持続可能でよりよい世界を目指すSDGsの考え方もも適合的と思われ、従来のような限られた範囲の数字による評価ではなく、環境その他への配慮をも加味して評価するESG投資等の原動力となる可能性をも感じさせます。西武鉄道は、かつて、時代のニーズに適う4ドア車両を導入しようとした際に、電車は3ドアまでであるべきだとする伝統に阻まれた経験も有しているようです。世界は今、そして我国にあっても、限られた価値観に基づく競い合いではなく、多様な価値観を認め共に暮らし共に生きる共生社会の実現へと大きく舵を切ろうとしています。身近な西武鉄道の発想転換には、私たちロータリークラブの今後にとっても、大いに学ぶべきヒントの数々が隠されているように思われます。

おわりに、困難を乗り越えるために力を合わせていただいた全ての皆様に重ねて感謝申し上げます、任期終了の挨拶といたします。